

ドイツ連邦食料・農業省 最新農林漁業情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft

NO 23
2019・1・26

1 ベルリン：2019年食料・農業グローバル フォーラム開催
(2019・1・17)

連邦食料・農業省政務次官ミヒャエル シュトウプゲン (Michael Stübgen) :
我々は農業のデジタル化問題の解決を必要とする。彼は今日 (1月17日) ベルリンで2019年度食料ー農業グローバルフォーラム(GFFA)を開催した。この会議のモットーは、” 農業の将来のために・農業はデジタルー賢明な課題解決を” である。

これについて政務次官が説明した:” デジタル テクノロジーは、世界の飢餓と効果的に闘う際に、限りのある資源を持続的に扱うための可能性をもたらす。その上さらに、より多くの家畜の福祉、食料の高品質性、消費者情報の提供改善にも配慮すべきである。しかし、そのようなテクノロジーへの農業者のスムーズな到達及びデータ主権とデータの信頼性について、問題もまた出されている。我々はこの問題を今回、我々への訪問者と共同で論ずる。”

このフォーラムは、食料と農業の分野からの中心的な将来課題について、国際レベルでしっかりと定着した国際会議である。これは毎年ベルリンでの国際緑の週間の始まりに開催される。今日の幕開け行事は、GFFA の行事の領域において、2019年1月17日から19日まで、オープニングの号砲があ発せられた。政治、経済、科学そして民間団体から、約2000人の国際的な訪問者がやってきた。

その中には、約70人の農業大臣、国際組織の高位の代表者10人が含まれている。さらに全世界から20人の若い農業者も到着した。彼らは自らの経験と期待を、議論の中にもたらす。そして自らの提案と要請を、土曜日に集合する農業大臣に紹介する。

背景：

農業のデジタル化は、同時に環境一気象に適応した農産物を、効率的に実現することを世界的に支援できる。デジタル化の問題解決は、生産資材（例えば動力用燃料、肥料、農薬）を節減し、そして家畜の病気を早期に発見し、消費者のためにより多くの透明性を創り出すという、目標にデジタル技術を的確に投入することができる。デジタル化は、市場情報と普及指導活動に、簡単にそしてコスト的に良好に到達し得る。

ドイツの農業者は、既にデジタル化を様々な形態で利用している。それどころか、多くの分野で先駆者になっている！それにも拘わらずデジタル化の将来は、国際的にそして経済、科学、民間団体と共同でのみ効果的に、論理的に形成される。そのため、連邦農業省は、モットー” 農業デジタルー将来農業の賢明な課題解決” を設定した。以下の問題について、様々な形態で議論される。

- ◎ 我々はデジタル化の可能性をどのように正しく評価・認識し、活用・奨励するか
- ◎ 我々は農業者に対してデジタルテクノロジーをどのように接近させるか
- ◎ 我々はどのようにデータ利用を改善するか。データの信頼性とデータ主権を確保するか
- ◎ 我々は農業と農村地域において構造的な改善をデジタル化によってどのように形成するか

デジタル化に向けた刺激と行動の奨励は、GFFAの政治的な頂点である第11回ベルリン農業大臣会議にもちこまれる。この会議は、連邦農業大臣クレックナーが指揮のもとに、2019年1月19日（土曜日）に開かれる。全世界から約70人の農業大臣並びに国際組織の高位代表者の参加が見込まれる。農業におけるデジタル化のための共同政治コミニケを、決定する予定である。

2 メルケル連邦首相が食料・農業グローバルフォーラムで挨拶

—農業のデジタル化は世界的なチャンスを提供— (2019・1・18)

食料と農業のグローバルフォーラム（GFFA）は、農業のデジタル化に取り組む。連邦食料・農業大臣ユーリカ クレックナーの招きで、連邦首相 Dr.アンゲラメルケル(Dr. Angela Merkel)が、初めてGFFAに出席した。今週金曜日午後メルケル首相は、世界から集まった約70人の農業大臣を前に、農業のデジタル化の重要性を述べた。

メルケルは、飢餓との闘いが今年度の中心的な課題であり、国際会議参加者にこのメッセージを強調した。”今日、見かけ上両立しない課題を引き合わせるために、あなた方はここにいる。丁度今、飢餓に対する様々な闘い並びに資源を意識的に取り扱うための闘いが重要である。この両方に係るデジタル化は、リスクよりもチャンスが非常に多く存在する。例えば、気象変動に対して首相は、模範となる手本を取り上げた。ドイツにおいてもある種の植物が、100年前のように最早成長できないことを。

気象変動は、我々の時代における生態系上の挑戦である。ここでもデジタル化は、支援することができる”とメルケルが述べた。加えて首相は、デジタル農業（精密農業）の重要性を語った。メルケル：デジタル農業は我々に役立つ高いチッソ割合を考慮して。これはしばしば非常に大きな問題である。これは各作物が肥料の節約によって効果を達成できる。

我々が将来的な知識と予測方法を見込むとき、我々は全く素晴らしい将来を手にする。首相はこの会議の視点でもって、政治的共同活動の重要性を強調した。”同時にこの課題の中心にある人々に、我々は支援対策の枠組み、その調整、法的安定性をもたらす必要がある。”彼女は世界中から集まった農業大臣に、デジタル化を推進しそのチャンスを活用するよう、呼びかけた。

まさに食料確保との関連で。連邦食料・農業大臣も自らの演説において、世界規模での飢餓と栄養不足に直面して、食料確保の重要性を強調した。食料の権利は交渉できるものでない。農業は平和と発展のための要素であり、そして生活経済である。ここではGFFAが決定する。受入れ可能な共同での問題解決を見出すこと。我々はこれを共同で実践したい。

デジタル化の可能性を活用

クレックナー大臣は、農業と食料の指導的な国際会議として、GAFFの重要性を強調した。世界規模での比類なき足場（訳注：施策における環境、基盤づくり）である。これは世界の飢餓と闘うための共通の目的を担うためである。

このために重要な農業のデジタル化によって、我々はより多くの人々が満腹になり、同時に持続的なコミュニケーションする状況を、創り出すことができる。

国境を越えた共同活動に焦点を

1月19日土曜日まで GFFA に、政治、経済そして民間団体の高位の代表者約 2000 人が集まっている。この人たちはこの国際会議において、世界的な農業―食料業の中心となる将来問題について、意見交換をする。同時に GFFA は、ベルリン見本市の国際緑の週間とともにスタートした。

農業のためにデジタル化を活用

「農業のデジタル化―将来の農業のために賢明なる課題解決を」のモットーのもとに、GFFA の専門行事において、農業のためにデジタル化の可能性を活用させ、そして農業者がデジタルテクノロジーから、利益を得ることができるよう、この課題が重要である。その際、データの信頼性とデータ主権（公開データ）もまた大きな役割を演ずる。目的は、国際レベルでの農業とデジタル化の形成と発展のために、新しい刺激を与えることである。

国境を越えた共同活動

既に昨日土曜日にドイツ連邦食料・農業省（BMEL）政務次官ミヒャエル シュウプゲンが、GFFA を開会した。彼はデジタルテクノロジーについて述べた：これはより多くの家畜の福祉、農産物の高品質化、そして特に消費者保護と消費者情報の改善をも提供する。政務次官は、国境を越えた共同活動の重要性を強調した：デジタル化は、決して国内のみで実現されるものでなく、国際的にそして経済、科学、民間団体との共同でのみ実現される。その際、背景には国際的な意見交換が必要である。

世界的に先導する国際会議

GFFA は、グローバルな農業―食料経済の中心となる将来課題のための、世界規模で先導する国際会議である。これは 2009 年以来、ベルリンでの国際緑の週間の分野において、食料確保の主題のもとに開催されている。全世界から約 70 人参加の農業大臣とともに、政策的な「彩り」を形成している。連邦食料・農業省が主催するフォーラムは、ベルリンの州政府と共同で組織しそして先導した。

3 ベルリン農業大臣会議：74人の農業大臣が最終コミュニケを決定

(2019・1・19)

ベルリン世界農業・食料会議（GFFA）：政府はデジタル化と農業のためのコミュニケに合意した。74ヶ国（当初予定よりも4名増加）の農業大臣は、第11回ベルリン農業大臣会議に際して農業とデジタル化について、チャンスもリスクもまた視野に入れておくことを了解した。GFFA に際して土曜日午後意欲的な最終コミュニケが、満場一致で合意された。

その中で大臣たちが強調した：農業におけるデジタル化は、1つの民族国家だけで形成するのではなく、国際的なネットワークで実施されるべきである。最終コミュニケにおいて74ヶ国の代表者が、国連（FAO）の食料－農業組織に対して、中立の国際デジタル協議会に関する構想の作成を要請した。政府もまた自ら義務を負っている：この会議は、コミュニケの中でデジタル化の可能性とリスクを認識、活用、奨励することを求めている。

そのため、農業者がデジタルテクノロジーに接近することも挙げられる。畑と畜舎から処理する情報について、データの信頼とデータ主権についての問題が提起されている。最終コミュニケにおいて、大臣は社会的なつながりでも目を向けている。デジタル化は、農業と農村に構造的な変革と破壊をもたらす－この変化は具体化のために有効である。

国境を越えた共同活動

ベルリン農業大臣会議は、GFFAの政治的彩りとして有効だった。GFFAには3日間で政治、経済、民間団体からの高位の代表者2000人が集合した。代表者は、世界の農業－食料業の中心的な将来課題について、この国際会議で意見交換を行った。”農業のデジタル化－将来農業のための賢明なる課題解決”のモットーのもとに、GFFAの専門開催行事を通じて、農業のデジタル化の可能性をより良く活用させること、農業者がデジタルテクノロジーからの利益を手に行けるといったような、課題が重要である。その際、データの信頼性とデータ主権もまた、大きな役割を演ずる。目的は、国際レベルでの農業とデジタル化の形成と発展のための、新しい刺激を与えることである。

連邦首相メルケルが初めてゲストに

連邦食料・農業大臣クレックナーの招きで、連邦首相Dr.アンゲラメルケルが初めてGFFAに出席した。連邦首相は、金曜日午後にクレックナーの前で、農業のデジタル化の重要性について話した。メルケルは飢餓との闘いが来るべき年に中心的な役割を演ずると、国際会議参加者にメッセージを送った。”見かけ上両立しない事柄を組み合わせるために、あなた方は今ここにいる。つまり、丁度今各々の飢餓との闘いと、資源の意識的な取り扱いのテーマである。

この両課題に関してデジタル化は、リスクよりも非常に多くのチャンスをもたらす。例えば、連邦首相は気象変動を取り上げた。”この100年間にわがドイツにおいても、特定の植物がもはや生育できない。気象変動は、我々の時代の生態系上の挑戦である。ここでもデジタル化の支援が可能となる”と、メルケルは述べた。

加えて連邦首相は、デジタル農業（精密農業）の重要性を指摘した。” しばしば非常に大きな問題となる高度な窒素割合に直面して。これは各作物が肥料節減することによっても達成できる。我々が人工知能と予測システムの活用を見込むとき、全く素晴らしい将来を我々の前にもたらずだろう” と、彼女は続けた。メルケルは、このフォーラムの視点でもって政治的な共同活動の重要性を強調した。” 同時にこのテーマの中心にいる人々のために、我々は先導的プラン、調整、支援の枠組み、法的安定性をもたらすことが必要である” とメルケルが述べた。

彼女はデジタル化を形成し、そしてチャンスを活用することを、全世界から参加した農業大臣に呼びかけた。まさに飢餓との闘いと栄養確保に関連して。

GFFA はグローバルな農業－食料業の将来課題を、世界的にリードする国際フォーラムである。このフォーラムはベルリンでの国際緑の週間の分野において、食料確保の主テーマのもとに、2009 年から毎年開催されている。74 人の農業大臣が出席した世界農業大臣会議は、政治的な彩りを形成している。このフォーラムは、連邦食料・農業大臣によって組織され、有限会社ベルリン見本市と社団法人 GFFA、ベルリン州政府と共同で開催された。

4 農村女性研究は農村における女性の将来展望改善のために重要な基礎

(2019・1・22)

連邦食料・農業省（BMEL）は、542 000 ユーロ（約 7 046 万円）でもって、この研究を奨励する。クレックナー大臣は、国際緑の週間に奨励通知を手渡した。緑の週間の領域の中で連邦農業大臣ユーリカ クレックナーが、農村女性連盟のイニシアチブでの「農村女性研究」のために、彼女の省の奨励通知を渡した。この計画は、542 000 ユーロで支援される。この研究は、ドイツ全域の農業経済における女性の生活－労働状況の量的、質的調査を実施する。BMEL 大臣クレックナー：農業は男性だけの問題でない！多くの女性が経営を先導またはそこで共に働いている。

そしてしばしば、さらに他の分野でも働いている。つまり、家政管理、子供の世話または教育、両親の介護など。それと並んで様々な団体組織または地方自治体の政治ボランティアとしての参加、そして現地での社会的な連携のために貢献している。” 私の省が 542 000 ユーロでもって奨励するところの、農村女性研究は、全て系統だって実施される。同時に我々は、農業における女性をより適切に支援しそして奨励するために、この研究の最終結論から引き出す科学的な基礎を与えられる。

現状の分析、データ、数値の基礎から政策決定を講ずることが、私にとって重要である（単なる直感でなく）。私は具体的に2つの中心的な課題設定に、関心をもっている。1つ目は現状についてである。経営、家政そして家族の世話といった実際的な生活一労働状況が、どうなっているか。彼女の仕事一収入関係はどのようになっているか。そして2つ目：農村地域における女性の生活が、社会と農業の中でどのように変化するのか”、である。ここでは、女性の挑戦と負担に対する詳しい見通し（特に福祉上の安全確保）が重要である。さらに農村の発展と村での連携のために、女性の役割を調査する。

背景：

社団法人ドイツ農村女性連盟のイニシアチブによる農村女性研究は、連邦農業省のプログラム「農村の発展」の領域において、3年間の実施期間でもって奨励される。クレックナー大臣は、農村女性研究のための奨励通知（542 000ユーロ）を、国際緑の週間において2019年1月22日に手渡した。

助成金受領者：チューネン経営学研究所 249 474,90ユーロ（約3 243万円）

所 長 教授有資格 Dr ヒルトルード ニーベルグ

ゲオルグーアーグスト ゲッチンゲン大学 講座

292 740,80ユーロ（約3 805万円）

教授有資格 Dr.クラウディア ノイ

この研究は、自立している農村女性、女性農業経営者、女性退職者（農業経営からの引退）家族の一員として協力する女性、男性経営主のパートナーなどに焦点をあてている。補助的な調査の中で農業における若い女性の生活一将来展望についても研究を深める。ドイツ農村女性連盟は、この研究をプロジェクトとして活動し、特にワークショップ、インタビューする女性の生産、成果に対する共同の役割についての調査企画が、連邦農業省から支援される。

2019・1・22 訳

青森中央学院大学

中川 一徹